

## I 新技術の解説

### (1) 要 旨

#### ○ね ら い

長十郎に替わる品種として期待される日本ナシ「新星」の高品質果実生産のための適正着果量を明らかにする。

#### ○経過と方法

- ① 試験場所：天王分場（砂土、棚仕立栽培）。
- ② 品 種：新星（平成6年時で11年生樹を供試、1処理3反復）。
- ③ 試験内容：平成3・4年は頂芽数当り着果数で、平成5・6年は樹冠占有面積当り着果数で3段階に調整し、果実重や果実品質への影響を検討した。授粉後25日ごろに粗摘果を50日頃に仕上げ摘果を実施し、その他管理は慣行に従い、10月中旬頃に適熟果を収穫して調査した。

#### ○技術の要旨

- ① 着果量の多少は、果実重や糖度などの果実品質及び食味に明らかな影響が認められた。着果量が多いほど、果実は小さく糖度は低目となった。
- ② 商品性の高い果実を安定的に生産するためには、樹冠占有面積1㎡当り着果数10～12果、1果当り6～7頂芽に調整することが必要で、1果当り葉数は全ての果そう葉と新梢葉を合わせると80～100枚位は必要と見られた。
- ③ 着果量を適正にすると、商品性の高い果実（果実重400g以上、糖度13%以上）の割合が最大となった。

### (2) もたらされる効果

適正着果の実施により、大きめでより高品質な商品性の高い果実が安定的に生産され、有利販売が可能となり、ナシ経営の収益性を高めることにつながる。

### (3) 普及対象範囲

県内の日本ナシ栽培地域（棚仕立栽培）

### (4) 普及上の留意事項

- ① 樹勢はやや強めに維持管理する。
- ② 粗摘果は授粉後25日頃までに、仕上げ摘果は授粉後40～50日位まで終える。
- ③ 収穫は地色や味を確かめ適熟で行う。

### (5) 発表文献等

な し

## II 具体的なデータ等

表-1 着果量の多少と樹相

着果量	樹冠占有面積 1 m <sup>2</sup> 当り着果数	1 果当り		L A I (葉面積指数)	6 cm以上 平均新梢長	樹勢指数
		頂芽数	葉数			
多	13.6果	4.1個	75枚	2.3	82cm	3.2
中	11.1	4.9	87	2.7	85	3.2
少	7.9	8.6	166	2.6	83	3.0

樹勢：1 強、2 やや強、3 中、4 やや弱、5 弱

表-2 着果量の多少と果実量

着果量	平均 果実重 g	果実重分布(%)						400g以上 果実割合 % (比)
		299g 以下	300~ 349	350~ 399	400~ 449	450~ 499	500g 以上	
多	406	2.9	12.9	32.0	28.3	16.9	7.0	52.2( 63)
中	458	1.0	4.3	11.6	27.6	31.8	23.8	83.2(100)
少	494	0	0.9	7.1	17.7	30.1	44.3	92.1(111)

表-3 着果量の多少と果実品質

着果量	調査 果実重	地色 指数	硬 度 (lbs)	糖度 (%)	リンゴ酸 (%)	pH	食味評価
多	403g	4.6	4.0	13.2	0.10	4.70	ほぼ良好
中	459	4.4	3.8	13.4	0.11	4.69	ほぼ良好
少	516	4.5	4.0	13.7	0.11	4.70	良 好

※地色指数：日本ナシ地色用カラーチャートでていあ部調査。

表-4 着果量の多少と果実量別収量及び換算収量

着果量	果実重別収量(kg)					400g以上 果実収量 kg (比)	10a当り 換算収量 (kg)
	299g 以下	300~ 399	400~ 499	500~ 599	600g 以上		
多	87	2022	1817	223	21	2061( 62)	4170
中	25	486	2292	1022	0	3314(100)	3825
少	0	100	1327	1305	263	2895( 87)	2995

※樹冠占有面積を10aの8割と見て換算。

発行年月	9506	キーワード	147
基礎分類	05	キーワード	
作目名	36	キーワード	